

平成 28 年度（2016 年度）
吹田市立図書館点検・評価報告書

平成 30 年（2018 年）3 月 23 日

吹 田 市 立 図 書 館

この点検・評価報告書は、図書館法（昭和25年4月30日法律第118号）第7条の3に基づき、吹田市立図書館の運営の状況について自己評価を行うとともに、図書館協議会による外部評価をいただいて作成し公表するものです。

吹田市立図書館は、「吹田市立図書館基本構想」（平成25年4月策定）を策定し、平成25年度（2013年度）から10年間の図書館活動の指針を明らかにしています。その第2章3のサービス計画の中で3つの基本目標を設定しています。この基本目標に沿って作成したアクションプラン（別表）の課題と各事業について自己評価と外部評価を行います。

吹田市立図書館の3つの基本目標

基本目標 1 地域の情報拠点として、いつでも、どこでも、だれにでも、役立つ図書館サービスを目指します。

基本目標 2 生涯学習を支援して、仕事や暮らしを豊かにする図書館サービスを目指します。

基本目標 3 子育てや学校の支援を通して、子どもの健やかな成長に役立つ図書館サービスを目指します。

評価の基準

- A 計画どおり取組みを実施し、目標を上回る成果があった。
- B 目標どおり取組みを実施し、一定の成果をあげた。
- C 取組みを実施したが、十分な成果をあげることができなかった。
- D 実施できていない。課題の整理、計画の見直しが必要である。

この基本目標とその取組みごとに、図書館の自己評価をするとともに、図書館協議会より外部評価を得るものとします。

〔凡例〕

※文中網掛け部分は、「平成28年度（2016年度）吹田市立図書館の基本方針と目標」【主な事業の計画】に掲載しているものです。

※文中、表に示している図書館名は次のように省略しています。

中央図書館→「中央」、千里図書館→「千里」、千里図書館北千里分室→「北千里」、さんくす図書館→「さんく」、江坂図書館→「江坂」、千里山・佐井寺図書館→「ちさと」、千里丘図書館→「千里丘」、山田駅前図書館→「山駅」、山田駅前図書館山田分室→「山田」

基本目標 1

地域の情報拠点として、いつでも、どこでも、だれにでも、役立つ図書館サービスを目指します。

取組み 1 図書館施設及びサービス網の整備

(1) 中央図書館の充実（再整備）

ア 中央図書館の整備計画策定を目指し、関係部署との調整を図る

市の施設の維持管理と適正化を目指した吹田市公共施設最適化計画推進委員会作業部会において老朽化した施設の再整備の議論がされています。

図書館については耐震診断の実施が認められ、29年度に予算化されました。その結果を以て今後の計画の判断材料となる見込みです。

イ 新・中央図書館建設時に書庫機能の整備を図る

(2) 図書館利用不便地域の解消

ア 岸部地域への施設整備を行い図書館サービス網の完成を図る

健都（北大阪健康都市）内での図書館整備を進めています。

イ 自動車文庫の活用

利用不便地区への巡回の継続 岸部、青葉丘、南吹田

(3) 図書館の広域利用促進

ア 北摂地域全体の広域相互利用の実施

平成29年度の早い時期からの実施が決定しました。

(ア) 豊中市（試行）

平成28年2月のシステム更新後、要望が多かったDVDの貸出を始め、千里図書館、山田駅前図書館でDVDの視聴機の利用もしていただけるようになりました。

豊中市、吹田市の広域利用ができる館は互いに4館ずつとしています。

	平成27年度		平成28年度	
	延利用者数（人）	貸出冊数（冊）	延利用者数（人）	貸出冊数（冊）
豊中市民利用	8,389	19,881	10,642	22,778
吹田市民利用	12,388	33,127	12,102	32,882

(イ) 摂津市（試行）

平成27年6月から千里丘図書館と摂津市民図書館の相互利用を開始しました。

	平成27年度		平成28年度	
	延利用者数(人)	貸出冊数(冊)	延利用者数(人)	貸出冊数(冊)
摂津市民利用	4,724	14,592	5,485	15,368
吹田市民利用	604	3,775	1,594	5,778

イ 大阪市との広域利用（試行）

平成26年7月から大阪市民がさんくす図書館を利用しています。

	平成27年度		平成28年度	
	登録者数(人)	貸出冊数(冊)	登録者数(人)	貸出冊数(冊)
大阪市民利用	275	6,406	376	7,307
吹田市民利用	1,316	45,911	1,207	42,949

取組みに対する

【図書館の自己評価】

図書館の自己評価

A

〔成果1〕 図書館協議会から答申をいただいている中央図書館の再整備については、施設維持の検討材料となる耐震診断が予算化されました。

〔成果2〕 利用不便地域の解消に向けては、北大阪健康医療都市内の健康増進広場での図書館整備が開始しました。

〔成果3〕 図書館の広域利用では、平成28年2月のシステム更新後、DVDの貸出を開始し好評を得ています。隣接都市の大阪市、摂津市、豊中市との広域利用（試行）に加え平成29年7月より北摂7市3町で本格実施することが決定しました。

〔課題〕 老朽化の進む中央図書館の再整備については、耐震診断の結果を以て、今後吹田市全体でご議論いただくこととなります。できる限り最良の施設を整備していきたいと考えます。

【図書館協議会の評価】

協議会の評価

A

〔成果1〕中央図書館の耐震診断が予算化されたことは、再整備に向けての大きな一歩だと思います。

〔成果2〕健都内の新図書館整備がいよいよ開始されたことも大きな前進です。

〔成果3〕吹田市では2011年から新たに山田駅前図書館、千里図書館新築移転、千里丘図書館を開館した。(仮称)建都ライブラリーの開館も予定されている。また、中央図書館の整備計画策定を目指して着実な努力が続けられている。吹田市立図書館協議会は平成27年11月24日「吹田市立中央図書館の再整備のあり方について」答申をした。中央図書館整備について吹田市公共施設最適化計画推進委員会作業部会等で再整備に向けて中央図書館の耐震診断の実施が認められてことは大きな前進と高く評価したい。

〔成果4〕北摂地域と近隣都市の広域利用も着実に進み、近隣市民を含め、全体にとって利用の便がおおいに高まった。

〔課題〕北千里地区の整備の努力を継続して欲しい。吹田市行政の中で、中央図書館の再整備の議論が高まって欲しいと期待している。そのためにも、各地域図書館のより一層のサービス向上に努力して、市民の図書館への期待と支持を得られるようご努力をいただきたい。

取組み2 利用促進

(1) 年間貸出冊数の目標達成

平成28年度個人貸出点数			
実績	3,587,079点	目標値	約384万点

平成34年度末に人口一人あたり12点を目標に掲げ、約432万点の貸出を目指しています。平成28年度の目標は約384万点で、目標への達成率は93.4%でした。

(2) 広報、情報発信機能の推進

ホームページコンテンツの充実とSNSの利用で情報発信機能の向上を図る。

公式アカウントによる「Facebook」「Twitter」での情報提供等、新しいホームページにおいて児童向けや地域資料のコンテンツの充実を図りました。

	ホームページアクセス推移 (件数)	
	平成27年度	平成28年度
蔵書検索	4,640,158	6,008,077
携帯版	11,458	17,016

SNS 投稿件数 (件数)		
	平成 27 年度	平成 28 年度
Facebook	580	520
twitter	934	738

(3) 来館困難な人へのサービス

ア 郵送貸出の実施

障がい者で図書館への来館に困難を伴う方々への郵送貸出を平成 29 年度より開始します。

イ 電算システム更新時にデジタルデータの公開を行う

地域資料等のデジタル化とホームページで写真や新聞記事見出し索引、地域件名等のデータベースの公開をしています。

取組みに対する

【図書館の自己評価】

図書館の自己評価

B

〔成果 1〕 IC タグを利用した図書館システムの導入により自動貸出機、返却機、予約照会機、予約棚、ゲートを運用しています。図書館のスタッフの手を経ずに資料の借出しをすることでプライバシー保護の向上と運営費用の削減につながっています。

〔成果 2〕 前年度はコンピュータシステムの入替休館のため貸出数を減らしましたが、回復し前々年度より貸出数は増加しています。目標点数に達しませんでした。利用者一人あたりの貸出点数は 50 点を超え自動貸出機の導入で、利便性の向上につながったものと思われます。

〔成果 3〕 「Facebook」「Twitter」「メールマガジン」での情報提供を実施しています。

「Facebook」では写真を使った行事報告や、最寄りの図書館に興味を持ってもらえるよう自館の PR 記事と、周辺の地域の話題なども館ごとに月 1 回のペースで掲載しています。

「Twitter」では、おすすめの資料、本日開催行事を日替わりで紹介することで、読みたくなる、行きたくなる仕掛け作りをしています。

「メールマガジン」では行事開催案内のほかに、調べものや地域に関する資料、図書館員のおき資料の紹介をしています。

〔課題〕 読書離れ活字離れが言われる中、新規登録者を増やすことが、目標達成への必須条件と考えています。

【図書館協議会の評価】

協議会の評価

B

〔成果1〕 来館困難者への郵送貸出の目途がついたのはかねてよりの念願がかなったと喜んでおられる方々がおられると思います。良かったです。

〔成果2〕 メールマガジンでは「新刊紹介」や「調べ物手伝います」では、図書館らしい情報が発信されている。IC タグの導入により予約・貸出・返却などが効率的におこなわれるようになった。導入当初の利用者の戸惑いも少しずつ慣れてきたようだ。

Facebook Twitter での情報発信は画像やすいぼん等とともに親しみやすい頁になっている。大阪府や国立国会図書館関西館など、つながっていく中で情報の広がりも出ている。

〔課題1〕 インターネットを利用した広報活動が成熟期に入ってきたと思われしますので、紙媒体での情報発信にもさらに磨きをかけてほしい。

〔課題2〕 難しいことですが、図書館未登録者に対してパッと目を引くような仕掛けを工夫する必要があると思います。

〔課題3〕 IC タグの導入の例にあるように、新しい技術の導入は多くなると思われるが利用者の戸惑いのないように工夫をしてもらいたい。

〔課題4〕、SNS では“いいね”やリツイートなどのリアクションで情報が拡散されることが重要。リアクションで情報の質が計れるので、投稿数だけでなく、リアクションの把握についても将来的な課題として検討していただきたい。

〔課題5〕 登録しても利用していない人がいるので、現在の登録者のもっと活発な利用を図る取組みを期待したい。

取組み3 資料と情報の提供

(1) 成人サービス

ア 読書情報の提供（おすすめ本やパスファインダー等）

読書の楽しみを知ってもらうために各館で特設コーナーを設置し、本の紹介をしています。設置に合わせて、リストの作成などを行いました。平成25年度から「Twitter」によるおすすめ資料「今日の1冊」の紹介をしています。図書館の「今

日の1冊」のコーナーで実際に本を手にとってもらえるようにしています。
 調べもの支援のため健康情報のパスファインダー(※)を作成し、各図書館で設置しています。 ※パスファインダー：テーマ別の課題解決のための調査方法案内（図書リストを含む）

イ 各種図書館講座の充実と文化行事の実施

平成28年度成人向け講演会等行事参加人数			
実績	4,452人	目標値	5,000人

※リサイクルフェアを除く

【成人向け講演会等行事参加人数内訳】

	中央	千里	さんく	江坂	ちさと	千里丘	山駅	計
回数	13	29	4	13	17	15	13	83
人数	675	1,729	190	1,154	285	192	227	4,452

※北千里分室は千里図書館に、山田分室は山田駅前図書館に含めます。

ウ 行事の開催等による新規利用者の獲得

昨年度に引き続き読書倶楽部の催し「日本の女性ミステリー作家の巻」を企画しました。利用者参加型行事として元出口座座員協力のマリオネットに触れる講座や読みつたえ朗読の連続講座を開催しました。千里図書館やさんくす図書館の多目的室を利用した写真展示会が好評でした。文化スポーツ推進室との連携事業で運動講座を実施し、各館で好評を得ています。

(2) レファレンス事例や地域資料データベースの充実

ア レファレンス（調査回答）件数

	中央	千里	さんく	江坂	ちさと	千里丘	山駅	計
一般	3,374	4,589	1,854	2,276	5,729	1,840	4,316	23,978
児童	609	782	96	513	1,660	467	1,006	5,133
計	3,983	5,371	1,950	2,789	7,389	2,307	5,322	29,111

平成27年度受付件数 33,729件

※クイックレファレンス（書架案内や簡単な調査）を含みます。

※北千里分室は千里図書館に、山田分室は山田駅前図書館に含めます。

イ レファレンス事例のデータベース化

吹田市立図書館で調査回答したレファレンス事例を国立国会図書館のレファレンス協同データベースに登録、公開し引き続き感謝状を贈呈されました。今後も研修に努めレファレンス能力の向上に努力していきます。

ウ 地域資料の収集保存とデータベース化

地域資料増加冊数 1,056冊

新聞等地域件名データ新規作成件数 1,517件

エ **大学図書館や類縁機関との連携**

類縁機関、大学などに閲覧、複写希望の方の紹介状を発行しています。
 大学との連携協力に関する基本協定に基づき、各大学との連携を行います。

(3) **行政支援サービス**

ア **公用貸出冊数（市職員への業務用貸出数）**

平成28年度 117冊

イ **行政向けの政策立案支援サービス**

行政職員向け新着図書案内サービスを開始し、問い合わせも少しずつ増えています。
 今後は本庁に向けて政策立案支援サービスをより積極的に周知することで、利用促進に取り組めます。

ウ **連携事業**

環境部の依頼で生物多様性に関連する資料展示に取組みを実施しました。

(4) **児童サービス**

ア **各種図書館講座の充実と文化行事の実施**

平成28年度児童向け行事参加人数			
実績	11,016人	目標値	19,000人

※児童文学関係講座、抱っこで絵本講座を除く

【児童向け行事参加人数内訳】

(ア) おはなし会（「ブックスタートのひろば」「おひざで絵本」をのぞく）

	中央	千里	北千里	さんく	江坂	ちさと	千里丘	山駅	山田	計
回数	131	94	19	120	53	46	28	79	7	577
人数	1,077	707	58	621	373	413	135	661	217	4,262

(イ) まつり、おたのしみ会、一日図書館員、その他

	中央	千里	北千里	さんく	江坂	ちさと	千里丘	山駅	山田	計
回数	61	27	13	21	16	30	30	33	9	239
人数	1,474	813	303	728	405	1,126	781	1,000	157	6,754

BM 3回151人

イ **図書情報の提供**

平成28年度冊子発行部数（YA向け冊子「てくてく」を含む）			
実績	17,334部	目標値	13,000部

【情報提供冊子発行部数内訳】

(ア) 「おめでとう1年生」配付部数 4,334部

(イ) 「もうよんだかな？ '16（第42号）」 8,500部

※「おめでとう1年生」は、市立小学校の1年生全員に利用案内やおすすめ本の紹

介の載ったリーフレットを配付し、各図書館で4月に特設コーナーを設置しています。

「もうよんだかな？」は、4、5歳から小学校高学年を対象に、前年に出た本のなかからおすすめの本を図書館の司書が選び冊子にして紹介しています。夏休みに特設コーナーを設置しています。

(ウ) 児童向けホームページ

平成28年2月に公開しました。子ども向けのレファレンスや図書館の使い方の説明など充実させました。

(5) ヤングアダルト (YA) サービス

※中高生世代向けサービス

ア YA サポーター行事参画状況

中高生世代の行事参加人数			
実績	55人	目標値	40人

【行事参加人数内訳】

(ア) YA サポーター活動状況

中央図書館 5回 参加のべ人数 22名
山田駅前図書館 6回 参加のべ人数 17名

(イ) YA ビブリオバトル実施

中央図書館 7月24日 参加人数 16(7)名
※参加人数には成人を含みます。

(ウ) 参加型企画

YA 向け冊子「てくてく」表紙イラストカット募集 40点
YA 向け冊子「てくてく」吹田のYAが選ぶおすすめの本 54点
10代オモシロイ本掲示板 7点

イ YA 向け冊子「てくてく」「サポーター通信」の発行

「てくてく」平成28年度(第32号) 4,500部

※「てくてく」は、中高生世代を対象に、前年に出た本のなかからおすすめの本を図書館員が紹介するとともに、吹田市の中高生世代によるおすすめ本の紹介とイラストなども掲載している冊子です。ミニ版(ダイジェスト版)は、市内中学生全員に配付しています。夏休みには各図書館で特設コーナーを設置し、応募原稿の全館巡回展示をしています。

取組みに対する

【図書館の自己評価】

図書館の自己評価

B

- 〔成果1〕 市民を資料に結び付ける機会を提供するために行う行事等の参加人数は目標値に達していませんが、順調に増加しています。図書館をPRし、一人でも多くの人に本との出会い人との出会いの場を提供し、その後の図書館利用につながるような取組みを続けます。
- 〔成果2〕 中央図書館と山田駅前図書館で中高生サポーターを募集し、ビブリオバトルなどの行事の取組みや、応募してもらった作品の巡回展を行って同世代の興味を喚起しています。中央図書館のサポーターはおすすめ本の紹介を掲載した「サポーター通信」を作成しました。市内図書館のYAコーナーに設置した他、中央図書館近隣の学校とYAサポーター在籍校に送付しました。
- 〔成果3〕 新聞記事の見出しや地域件名データを市民がインターネットを通じて検索することが可能になりました。更にデータの追加更新を続けます。
- 〔成果4〕 中高生世代の利用を増やす取組みとして、職業体験の受入れ方法を工夫したことで受入れ数が倍増しました。図書館を体験することで図書館の利用につながります。
- 〔成果5〕 学校への団体貸出しをスムーズに行うため「ごりまる便」の予約をインターネット化しました。
- 〔課題1〕 調べもの支援のためのパスファインダーについては、今後分野を増やしていく予定です。児童向けの作成にも取り組みます。
- 〔課題2〕 学校への団体貸出しの受付のインターネット化と学校への定期連絡便の運行の実施が課題です。

【図書館協議会の評価】

協議会の評価

B

- 〔成果1〕 行事等の参加人数が増加していることは、一定の成果の表れであると評価できます。
- 〔成果2〕 パスファインダー「病気・病院」など、ホームページにもアップされ、各図書

館でも配布されている。各部門にわたって、オンラインでも課題解決の資料が多数紹介されており、役に立つ。「吹田を知る」サイトも面白い。国立国会図書館レファレンス協同データベースへの登録、公開も図書館員の能力が発揮されている。

〔成果3〕市役所職員むけの政策立案支援サービスにも取り組んでいる。行政の中で図書館のサービスを広く認識してもらうことは大変重要だと思う。地道に続けてほしい。

〔成果4〕若い世代へサービス開拓も図書館サポーターへ募集や通信の発行など、目に見えるものになっている。

〔課題1〕講座や行事は、内容次第で成果の良し悪しが分かりますので、世の風潮や時代の流れに沿ったものとか、公共図書館でしか出来ないような普遍的な内容のものなど、温故知新の精神でバランスよく組み合わせられた魅力的な企画をさらに工夫してください。

〔課題2〕「吹田を知る」サイトや国立国会図書館レファレンス協同データベースには市民にとっても面白い事例が満載されているので、もっと活用できないか。学校の調べ学習や市公報誌での小さなコラム掲載等、広くつかってもらえるくふうをさらにして欲しい。国立国会図書館関西館「図書館講座じゅずつなぎバスツアー」などものの魅力を伝える機会になっていると思う。

〔課題3〕学校への支援の重要なのは要求の素早い対応と物流の確保だ。学校への定期連絡便運行の実施については、学校現場で「連絡便があったら、もっと活用できるのに。」という機運づくりが必要だろう。

〔課題4〕図書館でのビブリオバトルの取組は大人に交じって実施することで学校ではできないコミュニケーションも図れると思うので是非回数を増やしてもらいたい。

基本目標 2

生涯学習を支援して、仕事や暮らしを豊かにする図書館サービスを目指します。

取組み 1 施設や地域との連携

(1) 男女共同参画センター情報ライブラリー、平和祈念資料館などとの連携

横断検索や返却本の受付を行い、相互の施設で行事案内をしています。

(2) 児童会館・児童センターとの連携

図書館の保存年限を過ぎた子育て雑誌を移譲し、有効活用を図っています。

(3) 他部局との連携

文化スポーツ推進室との連携事業の運動講座が好評でした。

(平成27年 27回416人平成28年25回323人参加)

公民館等へ講師派遣をしています。

千里丘市民センターの依頼により防災イベントで防災に関する資料リストを作成し

パネル展示に協力しました。

都市計画部と豊中千里ニュータウン連絡会議と連携し講演会を実施しました。今後も継続の予定。

(4) 吹田市出前講座の充実と活用

平成28年度出前講座等講師派遣実施件数			
実績	23件	目標値	6件

平成27年度27件

【出前講座等講師派遣内訳】

	中央	千里	北千里	さんく	江坂	ちさと	千里丘	山駅	山田	計
回数	5	3	1	2	0	4	1	4	3	23
人数	141	52	54	75	0	359	16	84	185	966

図書館出前講座メニュー数 8講座

(5) 地域との連携

ア 各図書館で児童サービスコーナーに地域の保育所や子育て関連施設のパンフレットや逐次刊行物を置くなどして地域情報の共有に努めました。

イ 地域の公民館や自治会、隣接する施設に行事等の案内を配布し、図書館利用の促進に努めました。

取組みに対する

【図書館の自己評価】

図書館の自己評価

A

〔成果〕 出前講座実施件数は目標を上回り、図書館へのアピールにつながりました。今後も講座内容の充実に努めます。

〔課題〕 他部局との連携をさらに進めるため、いろいろな依頼にはできるだけこたえるようにして信頼できる施設としての位置づけを得るようにします。

【図書館協議会の評価】

協議会の評価

A

〔成果〕 男女共同参画センター情報ライブラリー横断検索、平和祈念資料館等との等の連携が進んだ。文化スポーツ推進室との連携で図書館での運動講座が好評だ。他機関での出前講座が積極的に実施された。地域との連携が実践されて、相乗効果が出ていると思われる。多方面との連携の中で、取り組み事業も多彩になっている。今後専門性をいかし、引き続きアクティブに出かけて行って図書館のアピールにつなげてほしい。

取組み2 自己実現の援助

(1) ボランティア活動の推進

平成28年度ボランティア総数			
実績	569名	目標値	735名

※目標値は平成34年度に1000名登録を目標に、年45名増を目指しています。

ア ボランティア登録状況 25団体 569名（達成状況77%）

※平成27年度 ボランティア登録状況 24団体 555名

イ ボランティア養成状況

(ア) 児童サービス関係

- ・ブックスタート等のためのお話ボランティア養成講座 6回 延人数 115人
- ・ブックスタートのためのお話ボランティアスキルアップ講座 2回 89人
- ・おひざで絵本のためのお話ボランティアスキルアップ講座 1回 46人

(イ) 障がい者サービス関係

- ・音訳対面朗読ボランティア養成初級講座 11回 延人数 95人
- ・音訳対面朗読ボランティア養成中級講座 10回 延人数 142人
- ・音訳対面朗読スキルアップ講習会 8回 延人数 73人
- ・デジジー図書製作・編集・使い方講座、プレ講座 9回 延人数 48人
- ・点訳ボランティア養成上級講座 10回 延人数 19人

ウ 主なボランティア活動状況

- ・ブックスタートのひろば実施回数 1, 221回
- ・おひざで絵本実施回数 441回

- ・対面朗読実施回数 651回
- ・音訳・点訳図書製作数 115タイトル
- ・図書館フレンズ活動回数 222回（延参加人数 473人）

【図書館フレンズ活動回数内訳】

	中央	千里	北千里	さんく	江坂	ちさと	千里丘	山駅	山田	計
回数	40	42	3	20	19	41	34	19	4	222
人数	118	82	4	44	33	85	80	22	5	473

(2) 自己実現へ向けての動き

千里図書館で開催したさわる絵本づくり講座の受講生による「さわる絵本一步の会」が設立され、その後も活動を継続されています。

(3) 各事業への市民参画による企画立案

市民団体等の企画による行事

図書館名	ボランティアグループ等の企画による実施行事	企画グループ等名称
千里	さわる絵本づくりを楽しもう！	さわる絵本一步の会
ちさと	暮らしに役立つ講座	吹田図書館ともの会
江坂	江坂ロビーフェスタ	技芸精舎

取組みに対する

【図書館の自己評価】

図書館の自己評価

B

〔成果1〕 ボランティアの登録人数は、このところ高齢化等の影響でわずかに減少していましたが、障がい者サービス対応をはじめ平成28年度も前年度に引き続きボランティア登録者数が増加しました。

〔成果2〕 市民団体等の企画による行事を主催、共催等様々な形で実施しています。また「図書館講座じゅずつなぎ」ではニーズも考慮しながら吹田にゆかりのある人や地域住民を講師に招いた講座を実施して主催行事の充実に努めています。

〔成果3〕 平成28年7月から活動予定表を図書館ホームページに掲載し、参加・登録を促進し、活動をPRしています。

〔課題1〕 ボランティア登録数が目標に達しません。人数を増やす事だけが重要ではないですが、養成講座修了者の登録促進や継続促進に努めます。また、図書館フレンズの活動を活発化していくため、登録中のメンバーにアンケートを実施し、感想やご希望を伺って今後の活動計画に活かしていきます。

〔課題2〕 催し物や各種講座等に企画段階から市民の意見を取り入れる仕組みづくりを目指します。

【図書館協議会の評価】

協議会の評価

B

〔成果1〕 図書館フレンズの制度は大変良いと思います。

〔成果2〕 図書館でのボランティア活動は図書館と市民の協働として定着してきた。特に児童サービス、障害者サービスの面では大きな力となっている。さわる絵本の講座をスタートして、活動が継続されている。吹田在住の人材による主催事業が展開されている。

〔課題1〕 「病院ボランティア」の名札を付けて男性も女性も良くわかるエプロンをつけて活動されているのを見かけました。図書館フレンズさんも一般利用者特別できるような工夫があれば、市民にもっと周知してもらいやすくなり、登録者の増加に一役買い、活動への理解が深まるのではないのでしょうか。

〔課題2〕 図書館フレンズに参加してくださる方が自己実現できることと、図書館サービスの進展のためにじっくり育てて欲しい。息の長い付き合いの中で図書館に対する市民の気持ちが深まっていると感じる。

取組み3 高齢者・障がい者サービスの充実

(1) 視覚障がい者サービス

ア 対面朗読実施回数 651回

※平成27年度 648回

イ 音訳図書・点訳図書製作件数 115タイトル

(ア) テープ図書 17タイトル ※平成27年度 32タイトル

(イ) デイジー図書 82タイトル ※平成27年度 97タイトル

(ウ) 点訳図書 16タイトル ※平成27年度 20タイトル

ウ 音訳図書貸出件数 3,368タイトル

※平成27年度 3, 284タイトル

- エ デイジー再生機（プレクストーク）の全館での利用体験の実施
- オ コンテンツダウンロード数（吹田市立図書館で製作したデータ）
点字データ 224回＋454回＝678回
デイジー図書 27, 112回

(2) 来館困難者へのサービス

- ア 自動車文庫による福祉施設等への貸出 11施設 貸出冊数 4, 860冊
※平成27年度 11施設 4, 866冊
- イ 身体障がい者等への郵送貸出については28年度より準備を始めました。（29年度開始）

(3) 聴覚障がい者サービス

- ア 職員の手話講座受講
- イ 講座への手話ボランティアの配置 3回

(4) 障がい児サービス

- ア 「さわる絵本展」（千里図書館） 参加人数633人

(5) その他障がい者へのサービス

- ア 「ユニバーサルコーナー」（千里山・佐井寺図書館）を開設しました。
※ユニバーサルコーナーにはLLブック、大活字本、点字図書、さわる絵本を特設しています。
- イ マルチメディアデイジー（映像つきデジタル録音図書）を収集平成26年から貸出を開始しました。
利用拡大をはかるため各図書館で利用体験講座を開催しています。
- ウ LL版の利用案内「ようこそ吹田市立図書館へ」を作成し、ホームページでも公開することで利用をすすめました。

取組みに対する

【図書館の自己評価】

図書館の自己評価
A

- [成果1] 平成25年度からサピエ(※)に録音図書の書誌と点字図書のコンテンツを登録し、全国から利用されています。
※サピエ（視覚障害者情報総合ネットワーク）：点字データや音声データの全国ネットワーク。

〔成果2〕 デイジー再生機の貸出を平成28年12月から実施しています。開始から4カ月で延6人の方に利用していただきました。

〔成果3〕 来館困難者への郵送貸出事業の実施に向けて準備を整えました。

〔課題〕 図書館のホームページへ障がい者サービス情報の掲載をすすめます。市役所関連部局や各団体との連携をすすめ情報提供やサービスの利用促進に努める。

【図書館協議会の評価】

協議会の評価

B

〔成果〕 サピエへの録音図書の登録は長年取り組んできた障害者サービスの成果として評価できる。全国から利用されて意義深い。大阪府済生会千里病院の協力により、「健康医療情報講座」も取り組まれている。市民の関心の高い分野なので、続けて欲しい。

〔課題1〕 マルチメディアデイジーの貸出も取り組んでいるので、福祉部門や学校教育との連携をとり、利用を進めて欲しい。障害者への情報発信は、市役所関連部門や各団体との連携を強め、時間をかけて進めて欲しい。

〔課題2〕 高齢者を意識した新しいサービスに取り組んでほしい。

取組み4 特色あるサービス

(1) ビジネス支援サービス

江坂図書館においては、関連資料の展示と有料データベース「日経テレコン」の提供を継続しています。ビジネス支援に特化した棚作りのための選書を行いました。特設コーナーは良く利用されています。

(2) 多文化サービス

ア 多言語による読み聞かせ等行事の実施 ※千里図書館で実施

平成28年度多文化関係行事回数			
実績	7回	目標値	5回

【行事等内訳】

- (ア) 英語でえほんを楽しもう！ 3回 70名参加
(イ) もっと知りたい！おとなりの国4 フィリピン 1回 18名参加
(ウ) ノンさんと英語でえほんを楽しもう 1回 29名参加

(エ) 英語でハロウィン

2回 31名参加

イ 外国語資料の充実

外国語資料所蔵数 5, 559冊

(3) 健康・医療情報サービス

保健センターの依頼により主催の講演会のテーマにあった本の紹介リストを作成提供しました。

「吹田保健所管内がん関係機関連絡会」の会議に出席し図書館の医療情報への取組状況を報告しました。図書館作成のパスファインダー（調べ方ガイド）を紹介し、好評を得ました。引き続き、大阪府吹田保健所と協力連携をします。

大阪府済生会千里病院の協力により「健康医療情報講座」を初めて実施しました。

(4) 就労・就業支援

さんくす図書館でコーナーを設置し、就職や仕事に役立つ資料を紹介しています。資格試験の参考書や問題集、「JOBナビすいた」等の関連施設のパフレットやちらしを置いています。平成28年度は良く利用された資料の更新や新しい分野の資格取得のための参考書を取りそろえ、資料の充実を図りました。また、「就職・資格」のパスファインダーを作成しました。

※「JOBナビすいた」は、吹田市に在住、在学、在勤の方を対象にした市の就労支援センターです。仕事の紹介の他、就労のためのセミナーや相談コーナーなどがあります。

(5) 地域経済への貢献

平成28年度実施事業数			
実施事業数	2	目標事業数	5

【実施事業内訳】

広告事業などで地域経済の発展に寄与し資料の充実を図る。

地域経済の活性化を目的として、平成24年度から図書館の資料を貸し出す際に発行する貸出レシート及びホームページに民間企業等の広告を掲載する事業を実施しています。

(ア) レシート広告 3社 54,000円

※貸出の時にわたすレシートに広告を掲載するというものです。

平成24年5月から実施。平成27年度 3社 48,000円

(イ) 図書館ホームページバナー広告 2社 39,000円

※図書館のホームページに広告枠を設け掲載するというものです。

平成24年11月から実施 平成27年度 3社 42,000円

(ウ) 広告掲載物品の無償提供

引き続き広告付きブックスタート用の袋の提供事業者募集を行い、応募条件の見直し等も行ってきましたが、応募が無く実現していません。

取組みに対する

【図書館の自己評価】

図書館の自己評価

A

- 〔成果1〕 英語による絵本の読み聞かせや外国文化を知る講演会を行いました。また、千里図書館と同じ施設内の国際交流協会主催の多言語絵本の読み聞かせ会へ資料提供等の支援を行いました。講師依頼などで施設連携が進んでいます。
- 〔成果2〕 多言語による読み聞かせ等の行事を千里図書館（阪急沿線地区）に加えて、JR沿線地区である千里丘図書館で実施しました。
- 〔成果3〕 広告事業については、引き続き取り組んでいきます。掲載企業は地元企業が多く、PRに一役買うことで、市内企業の後援に寄与するのがねらいです。
- 〔成果4〕 「吹田保健所管内がん関係機関連絡会」で情報交換をした大阪府済生会千里病院により、千里図書館で講演会を実施しました。
- 〔成果5〕 「就職・資格」のパスファインダー（調べものガイド）を作成しさんくす館で設置配布しています。
- 〔課題〕 ビジネス支援は、地域の企業や市内で就労されている方に対して具体的に働きかけていく必要があります。ガンバ大阪との連携事業については、市の文化スポーツ推進室が担当となり、より大きく市としての連携事業が実施されることになっています。今後図書館は引き続き、ガンバ大阪についての資料収集を続け、試合開催に合わせ相手チームの所在地の図書館と関連資料の交換展示に取り組みます。

【図書館協議会の評価】

協議会の評価

A

- 〔成果〕 多言語サービスの取り組みも国際交流協会などの連携の中で少しずつ進んでいる。

ホームページも利用案内等は多言語対応にするなど、使いやすくなっている。江坂図書館を中心に進んできたビジネス支援サービスも「公共図書館に行けば、仕事に役立つ本がある。」という意味でも定着してきている。

〔課題〕多言語の読み聞かせは地道に続けていけば、在日外国人家族への広がり、ニーズが見いだせると思う。多文化サービスは国際交流の関係団体と連携を更に深めながら広げて欲しい。長年取り組んできたガンバ大阪との連携も吹田市行政の中でも重要性を増している。サッカーの好きな子供は多いので取り込むようにできないか。資料の蓄積は図書館らしい力を発揮すると思う。オリンピックを控えてスポーツ関連の資料もより広く、専門的なものが求められると思う。

基本目標 3

子育て支援や学校の連携を通して、子どもの健やかな成長に役立つ図書館サービスを目指します。（「子ども読書活動推進計画（改訂）」の推進）

取組み1 子ども読書活動支援センター機能の充実

(1) 子育て支援サービス

平成28年度ブックスタートのひろば、おひぎで絵本等参加人数			
実績	20,801人	目標値	23,000人

【参加人数内訳】

ア ブックスタート事業

年度	絵本配布率	ひろば開催回数	ひろば参加人数
平成28年度	85.1%	1,221回	16,161人
平成27年度	85.4%	1,203回	15,748人

イ おひぎで絵本 ブックスタートを終了した2、3歳児とその保護者を対象にした読み聞かせの会

年度	開催回数	参加人数
平成28年度	441回	3,810人
平成27年度	431回	3,678人

ウ 抱っこで絵本講座

※1歳の幼児とその保護者を対象に絵本の読み方のコツを伝授する3回連続講座

平成28年度 48回 参加人数 542名

エ 保育士の子育て講座 江坂 1回 参加人数 40名

0、1歳児の幼児とその保護者を対象にブックスタートのひろばの後実施しました。子育て支援として気軽に子育てについての質問ができる環境の提供ができました。平成24年度から「保健師のなんでも相談」として実施していましたが、28年度

は乳幼児の参加の多い江坂図書館で「保育士の子育て講座」として実施しました。
 オ 親子で絵本とわらべうた 20回 参加人数 248名
 ※乳幼児とその保護者を対象に、絵本やわらべうたを楽しむ5回連続講座（中央で開催）。

(2) 学校連携

平成28年度図書館見学等学校連携事業参加人数			
実績	2,610人	目標値	2,300人

【参加人数内訳】

事業等名称	回数等	参加人数
図書館見学（※1）	26回	1,798人
ごりまる学校訪問（※2）	2回	60人
学校訪問（※3）	9回	554人
職業体験（※4）	21回	198人

- ※1 図書館見学：学年単位で図書館見学を受け入れ、図書館の利用案内、パネルシアター、大型紙芝居、絵本の読み聞かせ、ブックトークによる本の紹介などを行う事業です。町たんけん授業や、職業インタビューも含んでいます。
 - ※2 ごりまる学校訪問：自動車文庫の車両で、司書が学校を訪問して、図書館の利用案内、パネルシアターなど先生と相談し実施しています。
 - ※3 学校訪問：図書館から各園・校に出向き利用方法の説明や、読み聞かせ、ブックトーク（本の紹介）などを行う。
 - ※4 職業体験：市内の中学校から職業体験生を1回1校1～4人、1～3日で受入れ、貸出、返却などのカウンター業務の他、図書を書架に並べたり本にビニールフィルムを貼るなどの作業や絵本・紙芝居の読み聞かせなどの実習を行います。
- ア 団体貸出 428件 7,581冊
- イ ごりまる便 57校 1,993冊
- ※月2回自動車文庫のバスで団体貸出の本を学校に配達し、回収を行う事業です。
- ウ 「もうよんだかな」セットの貸出 26校 5,040冊
 過去の夏休み文庫で紹介した本（「もうよんだかな？」と「てくてく」に掲載分）を学年に合わせて40冊をセットにして学校に1学期間貸出しました。自動車文庫の車両で配達と回収を行いました。
- エ リサイクル図書の移譲 16校 2,857冊
 図書館で使わなくなった図書を、市民に提供する前に案内し移譲しました。
- (3) 児童会館・児童センターとの連携**
 図書館で使わなくなった図書や雑誌を移譲し、資料の有効活用を図りました。出前講座を行いました。

(4) 講座・講演会の開催

平成28年度児童文学に係る講座・講演会等の参加者数			
実績	484人	目標値	430人

【児童文学に係る講座講演会参加者内訳】

ア 子どもと本の講座

(ア)「子どもの本と私」 講師 富安 陽子 氏

3回 参加延人数 145人

(イ)「イギリスを旅して—児童文学作品とその舞台」 講師 池田 正孝 氏

2回 参加延人数 92人

(ウ)「はじめまして、宮沢賢治」 講師 森井 弘子 氏

3回 参加延人数 96人

イ 講演会

「第33回子どもと本のまつり秋の講演会」 講師 中辻 悦子 氏

10月30日 参加延人数 48人

「大切な人と読む、クリスマス絵本」 講師 正置 友子 氏

12月3日 参加人数 33人

ウ 後援事業

「広松由希子氏講演会」吹田子どもの本連絡会主催（子どもゆめ基金助成事業）

11月26日 65名

(5) 吹田市出前講座その他講師派遣

児童生徒の読書活動の振興を目的とする出前講座、講師派遣事業参加人数			
実績	941人	目標値	1,700人

【参加人数内訳】

	中央	千里	北千里	さんく	江坂	ちさと	千里丘	山駅	山田	計
回数	4	3	1	2	0	4	1	4	3	22
人数	116	52	54	75	0	359	16	84	185	941

取組みに対する

【図書館の自己評価】

図書館の自己評価
B

【成果1】 図書館独自の子育て支援の講座に加え、公民館や児童センター、地域への出前

講座、講師派遣を行いました。依頼があれば必ず出かけていきます。

〔成果2〕地域館で各小学校の読書活動支援者との交流会を実施しました。

〔成果3〕図書館のホームページの「学校支援のページ」を充実しPRに努めました。「ごりまる便」の受付などをホームページ経由にした結果、学校への団体貸出の件数や「ごりまる便」の利用がさらに増加しました。

〔成果4〕学研図書館部会への研修をはじめ、学校や幼稚園、保育園の先生が図書館を利用しやすいように案内をしています。地域館より学校訪問を行いました。

〔課題〕読書活動支援者を通じて学校へのサポートを継続していきます。貸出については、自動車文庫の車を活用するなど努力していますが、定期的な物流の確保が引き続きの課題です。

【図書館協議会の評価】

協議会の評価

B

〔成果〕学研図書館部会への研修や図書館見学等学校連携事業など増えている。地域館での学校訪問が始まった

〔課題1〕市立図書館として、学校図書館支援の努力は評価できる。「学校図書館法」改正により、学校図書館に専門職としての学校司書の必要性が明記されている。吹田市の公立小中学校の読書活動支援員が配置が進んでいる。1校1名の専任配置と努力されてきたが、学校図書館の整備はやっと始まったばかりと考える。特に組織面の整備、資料整理方法の統一等課題が多い。教育行政の重要な点として、全市的に取り組んでいただきたい。必要な時に必要な情報資料が学校現場で活用できるように、より一層の努力をお願いしたい。

〔課題2〕「吹田市子ども読書活動推進計画（改訂）」も5年を経過しているので、改訂の必要がある。地域教育部まなびの支援課が中心となって、全市的な視点にたって子どもの読書活動支援の具体的な推進計画に再度取り組む体制をとって欲しい。

〔課題3〕学校への図書の提供が更に進むような体制を整えて欲しい。

	平成 28 年度 図書館事業評価一覧	自己評価	協議会評価	
基本目標 1	地域の情報拠点として、いつでも、どこでも、だれにでも、役立つ図書館サービスを目指します。			
取組み	1 図書館施設及びサービス網の整備	A	A	
	2 利用促進	B	B	
	3 資料と情報の提供	B	B	
基本目標 2	生涯学習を支援して、仕事や暮らしを豊かにする図書館サービスを目指します。			
取組み	1 施設や地域との連携	A	A	
	2 自己実現の援助	B	B	
	3 高齢者・障がい者サービスの充実	A	B	
	4 特色あるサービス	A	A	
基本目標 3	子育てや学校の支援を通して、子どもの健やかな成長に役立つ図書館サービスを目指します。			
取組み	1 子ども読書活動支援センター機能の充実	B	B	
総合評価	<p>【図書館の自己評価】</p> <p>平成 28 年度は主催講座の充実と新しくなったコンピュータシステムを利用した情報発信に重点を置き取り組みました。ホームページで新聞記事等地域件名データベースを公開しました。</p> <p>講座については、運動プログラム事業が引き続き好調でした。参加型の行事に取り組んでいます。</p> <p>中央図書館と地域館拡充の施設整備については、今後も主体的に取り組んでいきます。</p> <p>市民協働をすすめながら今後もサービスを展開していきます。</p> <p>【図書館協議会の評価】</p> <p>第 7 期吹田市立図書館協議会では平成 29 年 11 月 30 日「吹田市立図書館への要望書」をまとめた。その中でも公共図書館と学校図書館の連携が一番に取り上げられている。学校図書館整備の人的、資料的整備は吹田の子どもたちのために喫緊の課題だと考える。</p> <p>また、吹田市立図書館協議会が平成 27 年 11 月「吹田市立中央図書館の再整備のあり方について」答申をした。市民参加の図書館協議会の意見が行政の中に届</p>		B	B

	<p>き、長年懸案であった岸部地区の整備が実現し、中央図書館の再整備について、行政としての努力されていることを大きく評価したい。</p> <p>「吹田市の図書館活動平成 28 年度統計」には図書館の全体像と地域館・分館での個別の取り組みや、市民参加を得てのサービス向上の努力がよく表れている。</p> <p>2011 年以降進められている地域館の建て替えや開館のなかで、5 ヶ年の図書館運営が見えてくる。窓口の業務委託の拡大や ICT 活用等、効率的運営と新しいサービスへの取り組みに努力されていることも行政判断として理解できる。だからこそ、図書館の専門職員としての技量が問われる 5 ヶ年であったともいえる。職員の世代交代も大きく動いているので、今まで培われてきた図書館員の専門性が今後の図書館運営いかされ、継続していける体制づくりについても行政のご努力をお願いしたい。</p>		
--	--	--	--